

芳門里美さん（双葉町復興支援員）

■ 活動内容

双葉町復興支援員（「[ふたさぼ](#)」）として、コミュニティ支援や[ブログ](#)による情報発信を行っています。コミュニティ支援では、町民の方々の活動をサポートしています。例えば、男性のコミュニティ活動への参加のため、男の料理教室の実施サポートをしたり、町民グループへ活動内容の提案をしたりしています。最近では、「ふるさとのために何かしたい」という双葉郡出身若者による「ぐるぐるユニット」というグループを立ち上げました。TV会議で定期的に話し合いをすることから始め、平成28年1月には、いわき市内で実施された双葉町ダルマ市で、双葉町民の懐かしの味である「よっちゃんスルメ」を再現・販売するサポートをしました。

■ 活動を始めたきっかけ

私は東京生まれ東京育ちで、震災前は特に福島県と縁はありませんでした。震災後訪れた南三陸町で、津波被災した漁師さんたちが自分の地域を元気にしようと取り組む姿を見たことや、そこで友人が[復興支援員](#)として働いていたことをきっかけに、復興支援員に興味を持ちました。募集説明会で、福島県の原発事故の影響で避難している市町村の住民の方々には、避難の長期化やその中での孤立化が課題であると聞き、平成25年8月に双葉町の復興支援員となりました。



「双葉町には方言や習慣、土着愛など地域のアイデンティティーがたくさんある。都内出身の自分には羨ましい。」と語る芳門さん

数十年ぶりに再現され、いわき市のダルマ市で販売された、双葉町民の懐かしの味「よっちゃんスルメ」



復興のパイオニア（復興女子編）

■ 活動を通じて思うこと

「ふたさぽ」で活動を開始した当初は、「コミュニティ支援とは何か？」という迷いからのスタートでした。

町民の方も役場の方も、何も知らない私に震災前の双葉町の話や、震災後の複雑な想いなどたくさん話してくれました。そんな中、震災後、双葉町を離れたことで、「できなくなってしまった」と感じることも多いですが、「今できること」、「やりたいこと」を町民のみなさんが考える手伝いをするのがコミュニティ支援ではないかと考えるようになりました。町民の方の気持ちやペースに合わせて活動したいと思っています。

平成28年5月に、いわき市内で、震災前農家をしていた町民の方が5年ぶりに田植えをする場面に立ち合いました。普段杖で歩いていた方が、畦道を杖なしでスタスタと歩き、ぬかるみに入って田植えをする姿を見て、震災前の生活の中で蓄積されたその人の技術や営みは今もちゃんと身体が覚えていること、そしてそれを生かす機会があることがその人を元気にするということを実感しました。私自身も、生活の中で「当たり前」と思っていることがたくさんありますが、それ自体がすごく幸せなことであると感じるようになりました。

復興支援員の仕事をする中で、このような気づきをたくさんもらっています。それを双葉町のみなさんに還元できるよう、引き続き取り組んでいきたいです。



双葉町の歴史的財産である、清戸迫古墳の壁画の渦巻文にちなみ、若者のつながりを連想して名づけられた「ぐるぐるユニット」のメンバー



「何年ぶりの田植えだあ。」と5年ぶりの田植えを難なくこなす町民の方